

大学地域連携学会 第1回大会報告書

1. 大会期間 2022年3月5日(土) 14:10～16:40
2. 大会会場 日本大学文理学部 本館ラーニングcommons
3. 開催形式 対面およびオンライン開催
4. 大会行事 基調講演, 研究発表
5. 大会日程

14:10～14:30 開会挨拶 大学地域連携学会 会長 落合康浩(日本大学文理学部)

14:40～16:30 基調講演

コーディネーター: 青山清英(日本大学文理学部)

講演I 石川尚子(医師)

「グローバルヘルスにおける地域や大学との連携」

講演II 土屋弥生(日本大学文理学部・学校心理士)

「大学と地域の連携に基づく大学生の体験学習における課題

—教職ボランティア・教職インターンシップを対象として—」

16:30～16:40 閉会挨拶 大学地域連携学会 副会長 藤平 敦(日本大学文理学部)

6. 大会行事報告

○基調講演

基調講演は、医師であり公衆衛生・感染症対策を専門領域とする石川尚子氏と、学校心理士であり臨床教育学を専門領域とする土屋弥生氏の両者の専門的視点から大学と地域連携の必要性と諸課題について講演が行われた。

石川氏は、国境なき医師団、世界保健機関等でアジアやアフリカにおける開発途上国の保健医療活動に従事していた経験から、グローバルヘルスの実現に向けた取り組みは、医療関係者のみならず、全ての関係者が密な連携と協力が必要であることを歴史的背景、MDGs(Millennium Development Goals)に対する取り組みと成果、大学や研究機関の貢献を取り上げながら、その必要性を述べた。具体例として①難民キャンプにおける西洋医学と伝統的な医学・文化の双方を取り入れた提案、②エビデンスに基づいたWHOガイドラインの作成と現場での活用、③感染症と差別・偏見に関する研究成果を基にした教育活動の提言を取り上げた。これらの事例から日々課題に直面する当事者や現場と専門分野の知識、技術、人材を有する大学が連携することが、存在する課題の解決に向かう道筋を発見できるとまとめた。

土屋氏は、教師の質保障と関わる教員採用試験の受験状況や地域連携が求められる学校の仕組み、多様な教育的な課題を抱える児童生徒への対応等の学校現場の現状から、教師には理論知のみならず実践知・実践的指導力の必要であると述べた。これらの知・力量の養成に向けた体験学習として、教職必修科目(教職実践演習)における授業実践や実例を基にした大学生の体験学習の受け入れの際の現状と課題、文理学部と私立高等学校が連携した教職インターンシップの概要と学びを促進させる仕組みが報告された。これらの事例から大学と地域が連携するには「相互理解」と「協働」が必要であり、①具体的な事業の目的やメリット・デメリットの共有、②相互のメリットが保持できる内容・進め方の事前協議、③連携事業に関わる全ての人々が、事業に納得し遂行に責任を持つことが重要であるとまとめた。

○研究発表

研究発表8題の抄録が提出され、本学会大会ページ上に1週間掲載された。